

江田弘良氏の 「風景写真展」 閲覧記 6

令和 6 年 9 月 17 日 記：高岡一人

展示会場：坂野記念館(岡山市北区栢谷)

閲覧日時：令和 6 年 9 月 14 日午後

今年も江田さんの写真展がおこなわれました。

いくつかの素晴らしい作品を抜粋してご案内しますのでご興味のおありの方はぜひ来年に期待して実物をご覧ください。(今年は16日で終了)

今回も学友数名で声かけして押しかけ、江田さんのご厚意で現地で作品の解説をしていただきながら見学させていただくことができました。

今年も数々の感動的な素晴らしい作品に心を奪われてきました。

今年も別の日に岡山ネットのオニビジョンが取材に訪れていたりして、江田さんには色々とお忙しい中、お手数をおかけしました。

事実、我々が訪問中も暑い中、次から次へと来客が絶えず、とてもお忙しい様子でした。

作品の紹介をいたします。(順不同)

1. 遊弋(ゆうよく)



遊弋とは軍艦が、徘徊・航行して、敵に備える行動のこととか。初めて聞く言葉で読み方すら知らなかった。金色の鯉が潜水艦で敵を求めて回遊する姿と捉えたということのようだ。作品の実物は実はもっと繊細で息を飲む。

注) 申し訳ないことに展示用ガラスの反射、写りこみがあつて実物の良さが表現できていないことに陳謝。

2. 龍が如く



天然木の枝を利用した干支の表現が面白い

3. 小糠雨



小雨に煙る樹林、淡いコントラストの中にモノクロでもなくカラーっぽくもなく微妙な色合いが雰囲気をよく表現している。しいて言えば右側から中央に伸びる細い枝は不要か？

4. 水郷



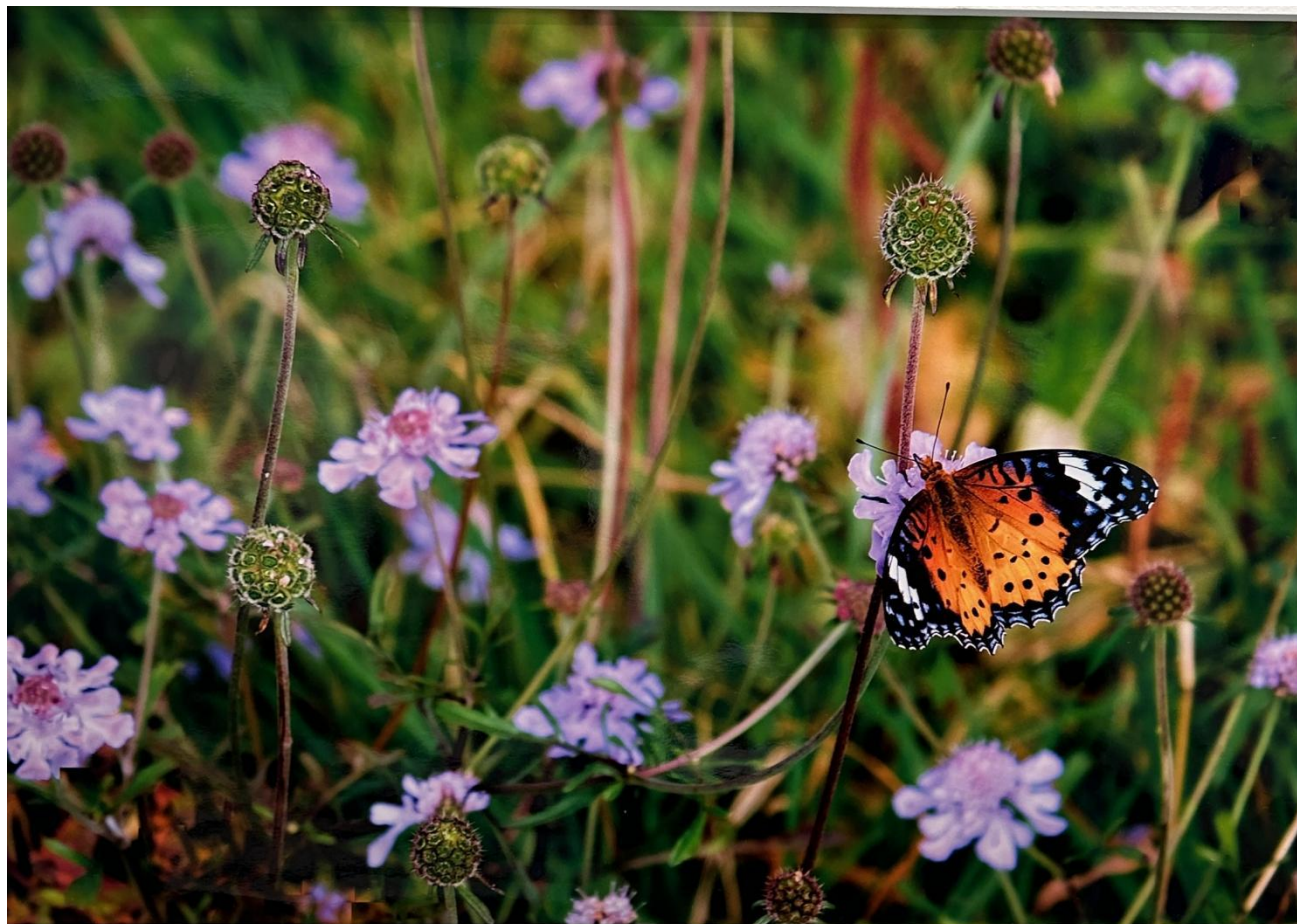
水面に浮かぶ蓮の葉が陽に照らされて紅く染められて不思議な印象の作品。

5. 紅蓮



火祭りの日か？塔のライトアップの明かりと燃え上がる炎が幻想的な赤の世界を作り出していて刺激的。

6. ある晴れた日に



松虫草の蜜に引き寄せられたツマグロヒョウモンと思われる蝶、色鮮やかな蝶ですね。写真の趣旨とはまったく関係ないですが蝶は種類が多くなかなか名前が覚えられません。

7. 待春



枯草の群生が水の中でじっと春がやってくるのを待っている。水の青が雰
囲気と、とても合致している。また水面のさざ波が効果を引き立てていて
全体として冬の寒さが伝わる素敵な作品。

8. 霜葉の景色



最初に見た時、これが霜だと気づきませんでした。葉から白い花か何かが生えているように見えてこんな植物見たことないなあ～なんて！水に浮かぶ朽ちた葉に霜が降り積もってできた幻想的な作品。極寒の朝の風景に撮影の苦勞が偲ばれる。

9. 惜秋



移りゆく季節、晩秋に木々が色を変えやがて白い世界に覆われるであろう
一時を惜しむという「標題」がとてもぴったりの作品だと思う。

10. 童話:もちもちの木



私は知らないが童話:もちもちの木に出てくる木だそうだ。それはともかく背景になっている水面に反射する陽と画面左に飛翔する鳥の姿、作者の弁によると「これがないとこの作品には見どころはない」とのこと。長い時間をかけて鳥が現れるのを待った末の作品だと思う。

(両端の白い光は展示場の反射によるものです)

[後記]

撮影者は撮影時の影像を加工することなくそのまま表現することをモットーとしているこのこと。標題はすべて撮影者の作によるものです。